

# 大野城市の文化財

< 第 39 集 >  
大野城市の遺跡 ⑩ 南大和編

---



2007

---

大野城市教育委員会

# 序

大野城市には、国指定史跡である大野城跡・水城跡をはじめとするたくさんの遺跡や民俗文化財が残されており、毎年発掘調査や民俗調査を実施しています。それらの内容について、市民の皆さんにより分かりやすい形でお伝えしようと年1冊『大野城市の文化財』を発行してきました。今回で39冊目になります。

今回は、前回に引き続き平成13年度より上大利地区で行われた区画整理事業にともなう発掘調査で見つかった遺跡の紹介をします。特に取上げるのは、県道31号線より南側の上大利南土地地区画整理事業により新しく南大利として生まれ変わった地区の遺跡です。計7ヵ所で発掘調査を行いました<sup>が</sup>、その内容は縄文時代から昭和まで非常に幅広く豊かなものでした。

調査された遺跡の変遷や遺跡の周りの歴史について時代を追ってみていくと、人々の生活は大きな歴史の動きの中にあることが分かります。と同時に、調査によって新たな発見があった時はその歴史に厚みを加え、新たな歴史観を生むことができます。過去を知ることは、現代社会と現代の人々によりよい未来へ向かって生きていくための知恵と経験と勇気を与えてくれます。そのために、本書が少しでも役立てれば幸いです。

平成19年3月31日

大野城市教育委員会  
教育長 古賀宮太

## 目次

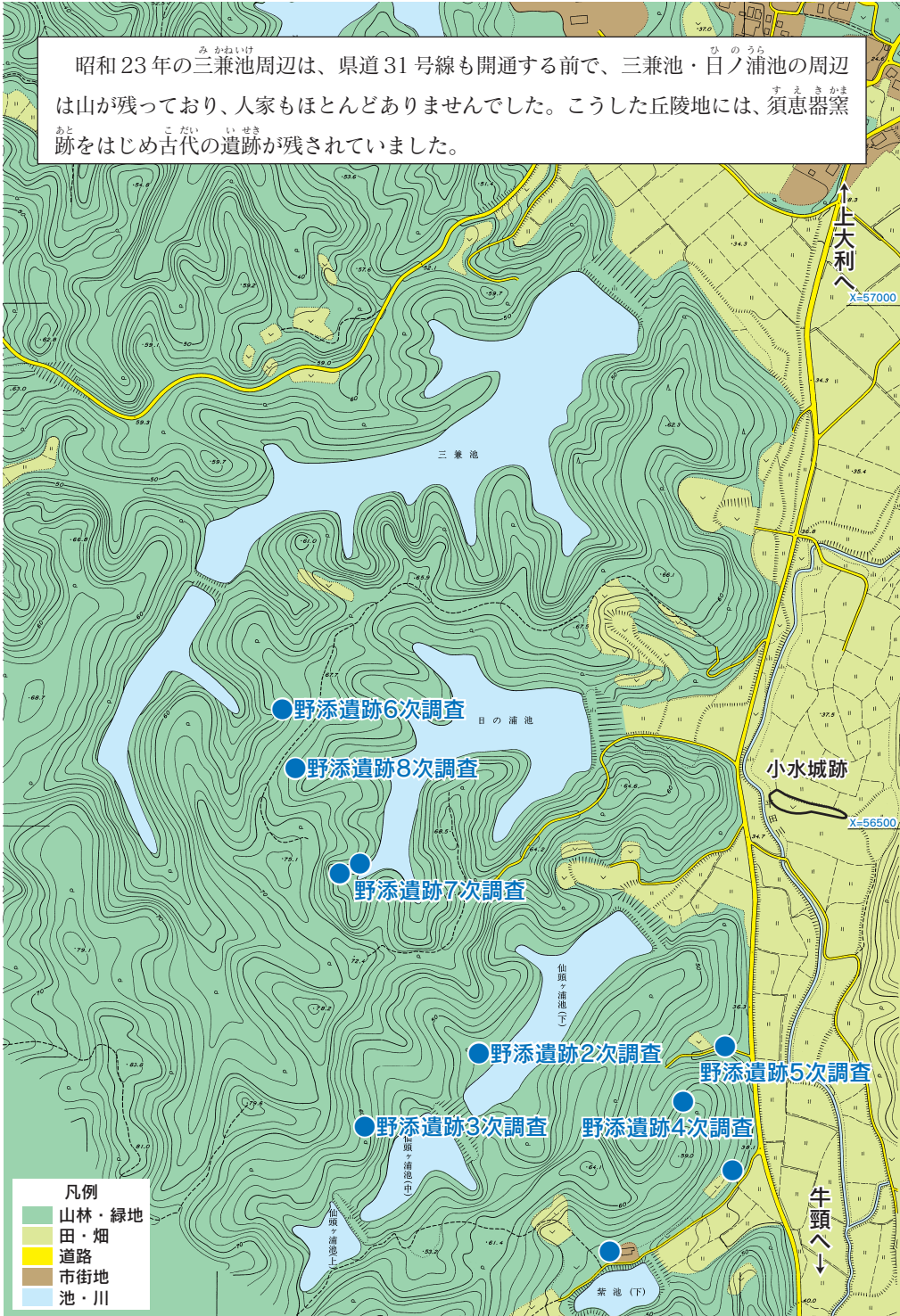
I. はじめに	1
II. 旧石器・縄文時代の人々	4
III. 牛頸窩跡群の時代	
i) 須恵器つくりと人々の生活	6
ii) 瓦つくりはじまる	8
iii) 陶棺の生産	12
iv) 大宰府と牛頸窩跡群	18
IV. 太平洋戦争と上大利	20
V. おわりに	24

# I. はじめに

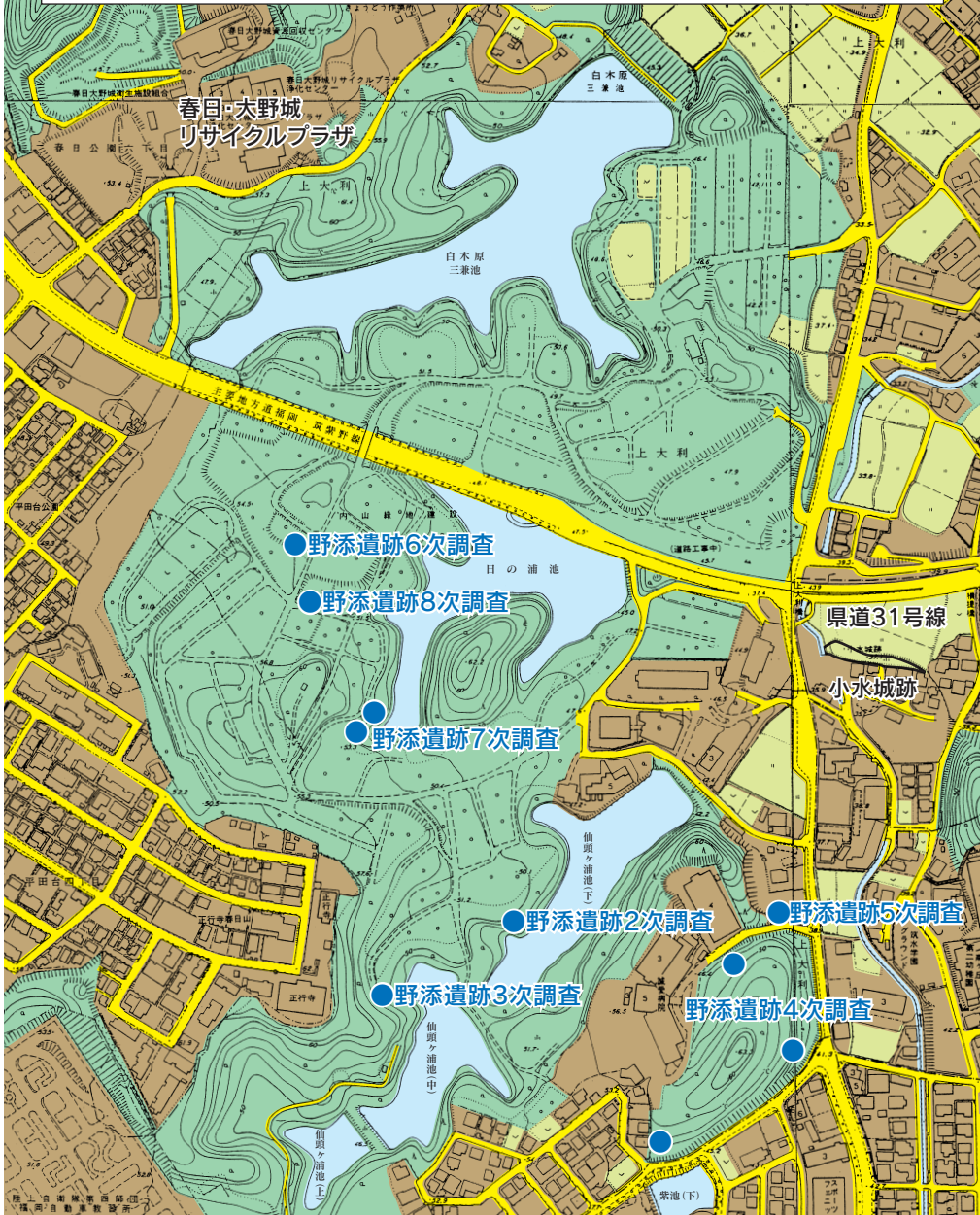
大野城市<sup>かみおお</sup>上大利地区では平成13年度より区画整理事業に伴う発掘調査が行われてきました。今回は、上大利南土地区画整理事業地の調査<sup>のぞえ</sup>（野添2～8次調査）についてまとめました。



平成11年の事業地周辺（区画整理以前）



平成に入ると、三兼池の周辺は大きく切り開かれ、県道31号線が開通し、周りには住宅街が広がっています。上大利南土地区画整理事業地は県道31号線の南側にあたり、7ヶ所の遺跡の調査を行いました。遺跡の名称は、これまでの周辺の調査から野添遺跡群としました。



平成の土地利用と遺跡立地